

# 2023 年度 新代議員選出選挙立候補者名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属	抱負
1	石川 栄一	筑波大学医学医療系 脳神経外科	私は、現在頭痛専門医・指導医として多くの患者の頭痛診療を行う傍らで医療関係者への頭痛教育に励んでおります。また、大学教員として学生講義に頭痛教育を取り入れ、若手医師、大学院生の研究テーマとしても頭痛関連の研究に取り組んでおります。 一次性・二次性頭痛両者に携わる数少ない脳神経外科領域の教授として今後も頭痛診療・研究・教育に携わっていくとともに、日本頭痛学会の発展のため全力を尽くす所存であります。
2	石川 理恵	八戸平和病院 麻酔科 ペインクリニック	順天堂大学でペインクリニックの研鑽を積んだ後、青森県で頭痛外来を立ち上げ地域の頭痛診療に注力してまいりました。臨床心理士と連携して子どもの難治性頭痛にも取り組んでいます。さらに、地域の頭痛診療に携わる先生方と連携するために勉強会を開催して頭痛医療の底上げを図ってまいりました。ペインクリニック（慢性疼痛診療）で経験したノウハウや他職種連携の経験を頭痛医療の発展に生かしていきたいと思っております。
3	石原 靖紀	福井愛育病院 小児科	小児科医としての使命を果たすべく、頭痛専門医として子どもたちの苦痛を軽減することに尽力します。専門家が少ない分野であるため、効果的な治療法の普及を目指し、子どもたちのために力を発揮します。子どもたちが安心して、笑顔を取り戻すことが私の目標であり、地域社会に貢献することを願っています。頭痛専門医としての抱負を実現し、小児科医療の向上に努め、子どもたちの健康を守り続けます。
4	井島 大輔	北里大学医学部 脳神経内科学	頭痛に苦しむ患者は本邦には1千万人を超えるにもかかわらず、頭痛診療を専門とする医師は不足しております。CGRP 関連治療薬の登場でこの分野の専門家の必要度は益々高まります。私は頭痛や脳卒中といった脳神経内科の common disease に真摯に取り組んで参りました。今後も頭痛の診療、教育に邁進するとともに、代議員として本邦の頭痛専門医の育成にも取り組みたいと思っております。よろしくお願い致します。
5	井尻 珠美	鳥取赤十字病院 脳神経内科	鳥取大学脳神経内科在職中は慢性頭痛とサイトカインの関連についてなどの頭痛診療・研究に携わりました。現在その知識や経験を生かし鳥取赤十字病院において頭痛外来を担当し、頭痛専門医として地域の頭痛診療を行っております。日本頭痛学会のさらなる発展のために、実地診療の観点から微力ではありますが貢献して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

# 2023 年度 新代議員選出選挙立候補者名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属	抱負
6	和泉 唯信	徳島大学病院 脳神経内科	徳島県で頭痛専門医として長年診療に携わってきました。また医学部医学科、保健学科、専門学校において頭痛講義も毎年行っています。徳島県は全国的にみても頭痛専門医がとても少ない状況が続いています。代議員として徳島県および四国地方の頭痛診療の質を向上させるべく自己研鑽を積むとともに、専門医の育成にも取り組んでいく所存です。また市民啓発にもこれまで以上に取り組んでいきたいと思ひます。
7	伊藤 泰広	トヨタ記念病院 脳神経内科	今の病院に約20年勤務しております。当院は西三河北部医療圏の急性期病院として脳神経疾患を広く診療し、頭痛にも積極的に取り組み、一次性頭痛はもとより緊急性の高い二次性頭痛の診断・加療もしてきました。そして、その知見を内外の学会や論文で発表してきました。今後も地域の頭痛診療に貢献したいと願うと共に、頭痛学会の発展や後進の指導・育成に努力する所存です。
8	今村 恵子	京都大学 iPS細胞研究所	これまで頭痛診療と頭痛病態に関する科学研究や神経疾患の病態解明・治療薬開発研究に関わらせていただき参りました。これまで学んで参りましたことを生かして、頭痛医療の促進と頭痛性疾患の科学的研究の発展に貢献させていただきたく、日本頭痛学会代議員に立候補させていただきたく存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。
9	碓井 遼	国立循環器病研究センター脳血管内科	頭痛に苦しむ日本人は1千万人を超えるにもかかわらず、頭痛診療を専門とする医師は少ないのが現状です。私の出身大学である北里大学は頭痛の診療、教育、研究で先進的であったことから、私は脳神経内科医として頭痛学に携わる機会に恵まれていました。現在は国内留学中ですが、帰局後は再び頭痛学にも真摯に取り組む所存です。代議員として本邦の頭痛診療の質を向上させ、専門医の育成にも取り組んで参ります。
10	大久保 昌和	日本大学松戸歯学部 付属病院口・顔・頭の痛み外来	国際疼痛学会や国際頭痛学会を中心として頭痛と口腔顔面痛の専門家が協力して国際口腔顔面痛分類や慢性疼痛分類の提案を行い、三叉神経領域の痛みの研究をさらに推進する体制が構築されつつある。立候補者は我が国においても、口腔顔面痛と頭痛の専門家との協力体制を確立し、頭痛学・口腔顔面痛学の発展にさらに寄与したいと願っています。

# 2023 年度 新代議員選出選挙立候補者名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属	抱負
11	大場 さとみ	医療法人オブライジ おおば脳神経外科・ 頭痛クリニック	私は頭痛診療に携わり 15 年になります。現在は大分県の「脳神経外科・頭痛クリニック」において、頭痛専門医・脳神経外科専門医の知識や経験を生かして地域医療を担っております。頭痛診療が活性化している今、疾患としての頭痛の認知度を高め、頭痛診療の均てん化を目指し、地域一次頭痛診療機関としての役割を果たしたいと考えています。そのためにも、日本頭痛学会の活動に積極的に参加し自身の研鑽も積んでまいり所存です。
12	大庭 英樹	盛岡駅前おおば脳神経内科クリニック	私は、岩手医科大学神経内科に入局以来、多くの頭痛診療に携わってまいりました。現在は開業し「より身近な頭痛専門医」として診療をしております。本学会の代議員として、私はこれまでの経験を活かし、頭痛の診断と治療における最新の知見を広め、患者様の QOL の向上に貢献することを目指しております。また、頭痛に関する啓発活動を積極的に行い、社会全体で頭痛に対する理解を深めることができるよう努力してまいります。
13	笠井 英世	昭和大学医学部 内科学講座 脳神経内科学部門	私が 2007 年に頭痛診療を本格的に始めてから、主に大学病院・地域中核病院において頭痛診療を行ってまいりました。4 年前の異動で大学病院に戻ってからは頭痛診療だけでなく、教育・研究にも関わってまいりました。まだまだ若輩ではありますが、情熱をもってこれからも日本の頭痛診療の発展に寄与してまいり所存であります。よろしくお願ひ申し上げます。
14	神辺 大輔	日本赤十字社 和歌山医療センター	私は現在、日本赤十字社和歌山医療センターで勤務しております。和歌山県は相対的に頭痛専門医の数が少なく、片頭痛を含め専門的に頭痛診療の可能な医療施設の数が限られています。片頭痛治療を含めた近年の頭痛診療のめまぐるしい進歩に和歌山県の片頭痛患者さん達が取り残されることのないよう、地域の先生方と協力して和歌山県の頭痛診療の発展に貢献できるよう、鋭意努力してまいります。
15	黒木 香行	地方独立行政法人 桑名市総合医療センター 脳神経外科	診察では色々な頭痛に出会います。鎮痛薬だけでは満足した治療ができないと感じ頭痛の勉強を始めました。診察を受けず一人で悩む頭痛患者さんが多いことを知り 講演や広報誌を用いた啓蒙活動を積極的に行っています。また鍼治療を医療に取り入れ 非薬物療法の確立も目指しています。三重県には代議員が不在です。県内における専門医の育成 頭痛診療の普及をすすめるためにも立候補いたしました。よろしくお願ひ申し上げます。

# 2023年度 新代議員選出選挙立候補者名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属	抱負
16	櫻井 謙三	聖マリアンナ医科大学 脳神経内科	当院は、人口、特に若い方の多い川崎市の中核病院であり、地域の頭痛診療の中核を担っています。私自身、難治性頭痛や診断に苦慮する二次性頭痛の診療を日々精力的に行っております。また、地域の頭痛診療の底上げのため、地域連携および若手の育成が急務となりますが、現在これら課題に対しても活動をおこなっている次第です。今後の地域の頭痛診療の質の向上を目標に尽力して参りたいと思います。よろしくお願いいたします。
17	貞本 泰孝	聖光会鷹の子病院	愛媛県松山市で、藤田先生、池田先生のご指導のもと、 1. 危険な頭痛を見逃さない 2. 困る頭痛を見過ごさない 3. 頭痛で困る方に寄り添う をモットーに頭痛診療に携わっています。 地域の患者さんへ頭痛の正しい認識を広め、頭痛で困る方をお手伝いし、臨床医の立場から学会や論文の発表にも積極的に取り組み、日本頭痛学会の発展に微力ながら寄与できればと願う所存です。宜しくお願いします。
18	佐藤 篤	嶋北内科脳神経外科 クリニック	脳神経外科医として頭痛外来に携わり、現在は小児/思春期、生産年齢層、高齢者の幅広い年齢の慢性頭痛や、RCVSや血管障害などの二次性頭痛の診断と診療を行なっています。また、学校での教育活動や各種講演会を通して、山形県の頭痛診療の普及に努めてきました。これまでの経験を生かして、頭痛専門医として一人でも多くの患者さんが適切な治療を受けられるように頭痛診療の重要性を啓発したいと思っています。
19	椎名 智彦	獨協医科大学 脳神経内科	頭痛と神経疾患の関わりについて臨床研究を行ってまいりました。今後も頭痛診療の向上および日本頭痛学会の発展、地域への疾患啓発活動に貢献できるよう努力していく所存です。
20	上木 英人	国立病院機構 横浜医療センター 脳神経内科	私はこれまで横浜市内の大学病院、地域のクリニックや市中病院で頭痛診療を行ってまいりました。しかし、横浜市は人口が多いにもかかわらず頭痛専門医の数が十分とは言えず、頭痛専門医を目指すための教育体制も不十分です。今後、横浜市の地域中核病院の部長として地域の医療機関との既存の連携を活用することで、横浜市内の頭痛診療体制の構築に尽力し、同時に教育体制を構築して、専門医の育成を図りたいと考えています。

# 2023年度 新代議員選出選挙立候補者名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属	抱負
21	新出 明代	天理よろづ相談所病院 脳神経内科	私は、大学病院や急性期病院で脳神経内科医として長く勤務し、頭痛診療では多くの一次性頭痛・二次性頭痛の診断・マネジメントに携わってまいりました。また、臨床研修医の頭痛診療の指導にもあたっております。これらの自身の経験を活かし、院内外の医療関係者との連携を取りながら、多くの患者さんに最新の治療を届けられるよう、地域の総合的な頭痛診療の向上をめざし、頭痛学会の発展に貢献したいと考えています。
22	鈴木 真紗子	岩手医科大学 内科学講座 脳神経内科 老年科分野	私自身、前兆のない片頭痛を治療しながら2児を出産、現在は抗CGRP抗体製剤の恩恵を受けている身であり、進化を続ける頭痛診療に非常に興味を持っています。日頃は自身の経験を活かし、頭痛患者の心に寄りそう診療を心がけています。今後も岩手県の頭痛診療に貢献できるよう邁進してまいりますので、どうぞ宜しくお願いいたします。
23	孫 明子	近江八幡市立 総合医療センター 脳神経内科	26年間頭痛診療に携わり、頭痛診療の進歩を体感してきました。それぞれの時代における最新医療を提供することはもちろんですが、難治性の一次性頭痛と向き合ってきた経験から、日常生活改善指導・丁寧な投薬指導・体質に合わせた漢方学的な治療にも積極的に取り組んでいます。これからも、頭痛患者のQOL向上と頭痛医学の発展のために貢献できるよう努力致します。
24	田畑 昌子	医療法人公仁会 姫路中央病院 神経内科	近年の頭痛診療の発展にはめざましい物がありますが、頭痛診療の認知度はまだまだ低くこの恩恵を受けていない患者さんも多いのが実情で頭痛学会の役割は大きいと思われまます。頭痛学会の発展、特に兵庫県西部での頭痛診療の発展に微力ながらお役にたてればと考えています。
25	土井 光	土井内科神経内科 クリニック	九州大学では多発性硬化症と頭痛の関係などの臨床研究に携わり、頭痛の診療ガイドライン2013および2021では作成委員として執筆にあたり、各臨床治験では責任医師として係り、学会・研究会での講演をこれまで行って参りました。代議員として承認された際には、これらの経験を基に、今後の日本頭痛学会の発展に貢献したく存じます。よろしく願い申し上げます。

# 2023年度 新代議員選出選挙立候補者名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属	抱負
26	富永 奈保美	国際医療福祉大学 市川病院 脳神経内科	<p>幼少期から、思い出にはいつも頭痛が隣り合わせと言っても過言ではないほど、頭痛患者として生きてきました。仕事と家庭と片頭痛の両立に悩む女性の一人として、一人でも多くの頭痛に悩む患者様に寄り添い、生活の質を向上させたいという思いで日々診療しております。</p> <p>「頭痛は受診していい疾患である」という認知を世間に広め、少しでも頭痛診療の裾野を広げる一助となれますよう努力する所存です。よろしくお願い申し上げます。</p>
27	中江 啓晴	済生会横浜市南部病院 神経内科	<p>頭痛の診断、治療は日々進歩しています。ですが頭痛患者さん、頭痛を専門としない医師に広く還元されているかということ、疑問があります。頭痛患者さん、頭痛を専門としない医師にもこれらの進歩が還元できるような啓蒙活動を行っていければと考えています。特に新しい治療薬についてのみならず、生活指導に力をいれていき、患者さんのQOLを高めることができるようにしたいと思っております。よろしくお願い致します。</p>
28	長尾 紀昭	富永病院	<p>脳外科医として、脳卒中・外傷・脳腫瘍・脊髄疾患に関する外科治療に携わってきました。その中で片頭痛に魅了され頭痛専門医を取得、この経験は外来診療、救急治療や周術期の頭痛診療等に生かされています。脳外科診療と頭痛診療の狭間の領域に関してまだ解決できていない病態や体制確立があると考え、一助となれるよう今後も努力いたします。微力ながら少しでも頭痛医学と診療の発展に貢献できることが現在の目標です。よろしくお願いいたします。</p>
29	野下 展生	さいたま赤十字病院 脳神経外科	<p>さいたま赤十字病院で脳神経外科の一般診療とともに、頭痛専門医・指導医として頭痛診療に取り組んでいます。頭痛の原因を心配されて受診する方や痛みで苦しんで受診する方など様々な患者さんがおられますが、正確な診断と適切な治療を行うことを心がけています。頭痛治療の必要性については患者さんや医師の側にもまだまだ理解が足りない部分があると感じており、学会を通じて頭痛診療の啓蒙を進めていければと考えております。</p>
30	花岡 吉亀	信州大学医学部 脳神経外科	<p>私は脳血管障害を専門としつつ、頭痛診療にも力を入れてきました。当院は2022年5月に頭痛外来を開設し、積極的に頭痛診療を行っております。また、同年11月には頭痛学会認定准教育施設となり、頭痛専門医の育成および臨床・研究活動の一層の充実を目指して意欲的に取り組んでおります。頭痛医療のさらなる発展と本学会の活性化の一助となれるよう精力的に尽力したいと存じます。よろしくお願い致します。</p>

# 2023年度 新代議員選出選挙立候補者名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属	抱負
31	東 桂子	鹿児島大学病院 脳神経内科/地域医療 支援センター	大学病院で脳神経内科の診療・研究・教育に携わりながら、一般病院では頭痛外来も担当させていただいております。それ以外には、キャリアコーディネーターとして、医師のキャリア形成支援や、医師の地域偏在の解消を目指す活動にも携わっております。これまで、臨床の場で培った経験や知見などを糧に、頭痛診療レベルの向上を含め、少しでも尽力できればと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。
32	平賀 陽之	千葉労災病院 脳神経内科	本学会に入会して17年になります。研修医教育に力をいれており、神経学の面白さを院内で配信しています。本年5月の臨床神経学に、若い医師向けの「症例報告の効果的な書き方」を公表しました。本学会総会ではこの10年間で8回筆頭演者として発表し、頭痛関連の論文をCephalalgiaなどに報告してきました。頭痛学会はお気に入りの学会であり、さらに学会活動に参加して頭痛医療の質の向上に寄与したいと思っております。
33	牧田 和也	牧田産婦人科医院	私は、2005年に入会後、産婦人科医の立場から女性の慢性頭痛の診療と臨床研究を今日まで続けて参りました。2008年に産婦人科医として初めて専門医を取得致しました。私の専門領域は「更年期医学」ですが、女性の片頭痛患者は年代を問わず非常に多く、月経周期や更年期の女性ホルモンの変動を考慮した片頭痛患者への産婦人科からのアプローチが、本学会に少なからず貢献出来ればと思ひ、立候補させて頂きました。
34	山畑 仁志	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 脳神経外科学	私の専門分野は脳腫瘍、脳血管障害、脊椎脊髄疾患です。脳腫瘍や脳血管障害は二次性頭痛の代表的疾患であり、その治療経験は頭痛診療に還元されています。また脊椎脊髄疾患の主訴の多くは頸部痛や腰痛などの痛みであり、頭痛診療に共通する点多々あります。これまでの頭痛診療や疼痛診療の経験を活かし、「頭痛外来」での診療、学生・専攻医への「頭痛教育」などを通して、地域医療に貢献したいと考えています。
35	吉村 晋一	関西医科大学 脳神経外科	関西医科大学では、長年頭痛の学生講義を担当し医学生に対して頭痛診療の指導を行なっております。また臨床の場では専門である脳血管障害による頭痛だけではなく、一次性頭痛の診療にも積極的に参加しております。患者さんへの情報提供と医学教育を通じて、適切な診断と治療が行われ、頭痛患者のQOL向上に尽力します。またさらには大学での最新の研究成果を広めることにより日本頭痛学会に貢献したいと存じます。

# 2023 年度 新代議員選出選挙立候補者名簿

(五十音順)

No.	氏名	所属	抱負
36	和田 邦泰	熊本市民病院 脳神経内科	脳卒中診療を軸に脳神経内科全般の診療に携わって参りました。当院は頭痛学会認定教育施設にも認定していただいております。頭痛専門医として、一次性頭痛から二次性頭痛まで幅広く多くの頭痛患者さんの診療を行っております。今後も日常診療はもとより、医師そのほかの医療者の頭痛に関する教育、頭痛医療の啓発などを通じて、地域全体の頭痛診療にも貢献していければと思います。